

【概要】

平成30年度は、自然災害に伴う大きな被害が全国各地で発生した年でしたが、災害ボランティアセンターの設置等、本会の役割について改めて考える機会ともなりました。

総合交流センター（夢アリーナたかた）は、スポーツや各種イベントの開催だけでなく、災害時の支援拠点としての役割も兼ね備えた施設となっています。また、保健福祉総合センターが完成し、保健・医療・福祉の連携の拠点として、市民の健康面のサポートしていく体制も整ってまいりました。

市内の小中学校に建設されていた仮設住宅は全て撤去され、災害公営住宅や高台等への住宅再建が加速されている中で、本会としては、未だ仮設住宅での暮らしを余儀なくされている住民の方々をはじめ、新しい生活を始めている住民の方々への見守り・相談、さらには、地域での新しいコミュニティ作りへの支援は、住民や関係機関と連携を取りながら進めてまいりました。

相談業務につきましては、生活困窮者自立促進支援業務をはじめとして、日常生活自立支援事業や生活福祉資金貸付事業等とも連携した取り組みを行い、市民の方々の抱えている課題解決に努めました。

民生委員児童委員協議会のご協力をいただいている「こんにちは赤ちゃん訪問事業」は、住民と地域の民生委員と社協を顔の見える関係に結びつける形で、子育て世代の孤独防止にも役立っています。

介護保険事業では、部分的に人材不足や利用者の減少等による介護報酬の減収が見られますが、職員一同利用者に満足していただけるサービスの提供に努めました。

東日本大震災から8年となる平成30年度は、各種復興事業が終盤にかかっている中で、継続的な事業を見直しつつ、将来も見据えた活動に取り組むことに努めました。

主な事業内容と実績

地域福祉事業

- 社協広報誌の発行 12回
- うるおいとやすらぎの家事業
助成金交付額 2,085,000円/11地区
- ふれあいネットワーク事業 対象者 5名/2地区
- こんにちは赤ちゃん訪問事業 86世帯へ訪問
- 福祉バスの運行 9回
- 金婚祝賀会の開催 参加者69名/参加率58%
- 福祉大会の開催
受賞者 個人29名、4団体/出席者 288名
- 福祉無償運送事業「おひさま」
登録者数 329名/利用延回数 2,867回
- 支え合いマップ作成事業 米崎町脇の沢団地
- 福祉団体への助成 469,000円/6団体
- 福祉学習会の開催 市立矢作小学校、県立高田高等学校
- ふれあいサロンの開催
実施回数 148回/参加延人数 2,226名
- 生活支援相談員の配置
訪問対象世帯数 1,402世帯
訪問延件数 19,358件
- 自立再建後のコミュニティ再生支援
 - ・ 岩手県大型災害公営住宅自治会交流会への協力
 - ・ 岩手県主催「コミュニティ食堂」への協力
- 市民交流プラザの運営
 - ・ 「市民交流プラザだより」の発行
 - ・ 下和野「一緒に昼食を食べる会」の開催
 - ・ 中田市民交流プラザ第1回住民交流会の開催
- 介護予防・いきいきライフ事業
開催数 24回/参加数 533名

福祉サービス利用支援

- 生活福祉資金 相談件数 43件 貸付件数 10件
福祉費 5,832,000円
教育支援資金 7,016,000円
- たすけあい資金
貸付件数 1件/貸付金額 30,000円
- 生活困窮者自立支援事業 相談件数 115件
- フードバンク 提供延回数 18回
- 日常生活自立支援事業（あんしんねっと）
利用者数 22名

ボランティア活動センター

- ボランティア活動保険の加入促進
- 福祉ボランティア講座の開催 参加者20名
- 市民ボランティアの登録 28名、12団体
- 市内外ボランティアのマッチング 119件
- 資機材の貸出し 26件

福祉団体との共同事業

- 陸前高田市民生委員児童委員協議会
- 陸前高田市老人クラブ連合会
- 陸前高田市ボランティア連絡協議会

在宅福祉事業

- 介護保険訪問介護
提供延件数 2,422件/月平均利用者数 15名
- 障がい者訪問介護
提供延件数 2,318件/月平均利用者数 31名
- 居宅介護支援 介護給付 月平均利用者数 56名
予防給付 月平均利用者数 6名
- 通所介護事業
登録者数 22名/提供延件数 1,572件